

# Haruna<sup>TM</sup>

ハルナグループ 組織

## ハルナビバレッジ株式会社

Haruna Beverage Company,Limited

- グループ戦略 ●グループ財務経営 ●営業
- 市場開発 ●商品開発 ●SCM

## ハルナビバレッジファクトリー株式会社

Haruna Beverage Factory Company,Limited

- 生産活動

## HARUNA株式会社

HARUNA Inc.

- 輸出 ●輸入 ●営業活動 ●市場開発

## ハルナインテリジェンスネットワーク株式会社

Haruna Intelligence Network Company,Limited

- 人事管理 ●経理 ●財務受託業務 ●情報戦略

## ハルナウェルネスサイエンス研究所

Haruna Wellness Science Research Institute

- 素材・原料の研究開発

## ハルナビビジネススクール

Haruna Business School

- 人材教育・育成

## ワイエスロジスティクス株式会社

YS Logistics Company,Limited

- 商品管理 ●配送活動

## ハルナヨーロッパ S.A

Haruna Europe S.A

- 飲料・食品の海外販売



ハルナビジョン2015の達成へ向けて次のステージへ。

2010年度からの中長期経営計画を確実に達成してグループの総合力を発揮し、独創性ある飲料プロデューサーへ飛躍していきます。

ハルナグループは創業20周年にあたる2015年度を一つの目標点と捉えた中長期経営計画「ハルナビジョン2015」を昨年発表しました。2010年度は初年度として計画を上回る業績を出すことが出来ましたが、未だスタート地点に過ぎません。

2011年度、ハルナグループは3つの目標を掲げました。

- ①お客様満足業界ナンバーワン志向の徹底
- ②各現場における、リスクマネジメントの向上
- ③顧客ニーズを捉えた商品開発力の向上

これらを実現し、企業の競争力と経営基盤を強化してまいります。また、ハルナグループはミネラルウォーター、お茶、フルーツジュースをはじめとしたペットボトル飲料という生活に密着した商品を生産・販売しております。最終的なお客様は消費者であり、お客様の視点に常に立ち、商品開発から、品質・生産管理、製品の配送までサプライチェーン全体の隅々まで目を配り、消費者がいつでも安心して美味しく弊社製品を飲んでいただけるよう最善を尽くすことをお約束し、皆さまのご満足とご支援にお応えするべく精励してまいりますので何卒、宜しくお願い申し上げます。

ハルナビバレッジ株式会社  
代表取締役社長

青木 麻生

## ハルナビバレッジ株式会社

Haruna Group Company Profile

- 法人設立 1996年2月23日
- 所在地 東京 本社: 〒103-0027 東京都中央区日本橋3丁目8-4 日本橋さくら通りビル2F  
Phone:03-3275-0191 Fax:03-3275-0192  
高崎 本社: 〒370-0841 群馬県高崎市栄町4番11号 原地所第2ビル9F  
Phone:027-387-0101 Fax:027-387-0102  
SCM Unit: 〒370-3504 群馬県北群馬郡榛東村広馬場3044-12  
Phone:0279-55-1241 Fax:0279-20-5780  
商品開発Unit: 〒370-3504 群馬県北群馬郡榛東村広馬場3044-12  
Phone:0279-30-6345 Fax:0279-55-6676
- 資本金 4億2,090万円(発行済株式数8,718株)
- 連結売上高 164億円(2011年3月末)
- 社員総数 280名
- 事業内容 ・グループ戦略 ・グループ財務経営 ・営業活動 ・市場開発 ・商品開発 ・共同購入活動 ・SCM

- 役員 取締役グループ最高経営責任者(創業者) 青木 清志  
代表取締役社長兼代表執行役員 青木 麻生  
代表取締役常務兼常務執行役員 栗原 健一  
取締役兼常務執行役員 中澤 幹彦  
取締役 有田 喜一【群栄化学工業㈱代表取締役社長】  
取締役 須齋 嵩 【群馬大学・宇都宮大学教授】  
取締役 三浦 眞吾【NHKコンピュータサービス前代表取締役社長】  
最高監査役 小出 信介【小出公認会計士・税理士事務所 代表】  
監査役 杉山 学 【群馬大学 社会情報学部 准教授】  
常務執行役員 山崎 敦也【営業Unit】
- 執行役員



## 経営方針 2011年「Creativeな発想で自らの使命を果たそう!」

- 成功からも失敗からも、プラスの結果を導いていこう。
- 未知なるものを否定せず、未知なるものを追い求めていこう。
- 謙虚さを忘れず日々努力、精進を心がけよう。
- 安全・安心・品質重視、顧客満足No.1の製品作りを実施しよう!

このたびの東日本大震災により被害を受けられた皆さまに、心よりお見舞いを申し上げます。また、お亡くなりになられた皆さまのご冥福を心よりお祈り申し上げます。ハルナビバレッジファクトリー(株)は北関東の地で大きな被害も無く当日稼動を再開することができました。我々の使命は被災地支援、首都圏に安全な飲料をお届けすることであり、今後も災害復興の支援活動と、お年寄りからお子様まで安心してお飲みいただける飲料をお届けしてまいります。

飲料業界につきましては、厳しい環境の中、他社との差別化と、業務の合理化が急務であり、最適な業務と戦略が必要です。また、実行するためには明確な目標を立て、達成に向け『常に考える集団』『大局観を磨く』『顧客マインドを磨く』『強みと弱みを知る』『仕事に付加価値を求める』ことが重要であると考えます。

ハルナビバレッジファクトリー株式会社とタニガワビバレッジ株式会社は共通する事業分野(生産・品質・環境)領域を持つ法人でありますので、それぞれの経営資源を統合し、個人の能力を最大限に引き出せる体制を構築し、経営の効率化と収益力の強化を図るため2011年4月1日に統合し、【ハルナビバレッジファクトリー株式会社】としてスタートいたしました。タニガワビバレッジ株式会社としてお世話になった皆さまに厚く御礼申し上げます。ハルナビバレッジファクトリー株式会社と

して、変わらぬご愛顧を宜しくお願い申し上げます。

今回の再編は、ピラミッド型組織からフラット型組織へと変革を果たし、自身の役割を自覚し、責任、貢献を明確にし、社員の意識改革を目的とし、業務再編を実施してまいります。社員一人ひとりの労働生産性を高め、ハルナグループの「利益を伴う持続的な成長」と「顧客満足度ナンバーワン」実現を目指します。社員一人ひとりが、成功からも失敗からも大切なものを生み出し、謙虚さを忘れず日々、努力精進を心がけ、厳しい環境下ではありますが、常にお客様の視点にたち「Creativeな発想で自らの使命を果たそう!」を経営方針とし、今後も全力で取り組んでまいります。

ハルナビバレッジファクトリー株式会社  
代表取締役社長

中澤 幹彦

## ハルナビバレッジファクトリー株式会社

Haruna Group Company Profile

- 法人設立 2009年4月1日
- 所在地 本社 ハルナ工場:〒370-3531 群馬県高崎市足門町39-1  
Phone:027-372-6911 Fax:027-372-6912
- タニガワ工場:〒379-1307 群馬県利根郡みなかみ町政所1011  
Phone:0278-62-1111 Fax:0278-62-1144
- 資本金 4億円(ハルナビバレッジ100%出資)
- 連結売上高 35億円
- 事業内容 •清涼飲料水の製造販売 •品質管理 •天然水製造販売 •豆乳受託事業 •ペットボトル容器成型 •共同事業
- 社員数 273名
- 役員 代表取締役会長 青木 清志  
代表取締役社長 中澤 幹彦(ハルナビバレッジ 生産・品質・環境担当執行責任者)  
取締役 青木 麻生(ハルナビバレッジ 経営執行責任者)



## アブダクティブ インテリジェンス カンパニーへの飛躍

今年(2011年)の2月でハルナグループも創業15周年を迎えることができました。

今日までグループでは、常に変化を認識し「顧客視点から組織を考える」を念頭に、組織再編・改革を実行してまいりました。今年の4月に2回目の再編が完了し、機能別組織が完成いたしました。この組織をいかに合理的・効率的に機能させ、グループ全体最適を導けるかが今後の課題となります。

今後持続的に成長し、地球の環境と社会に貢献していくため、AIC(アブダクティブ インテリジェンス カンパニー)への飛躍を目指し取り組んでいきたいと考えております。

### ●HRI(ハルナリスクインテリジェンス)の構築

ハルナリスクインテリジェンスでは中長期経営目標を達成する(目的)ために、その障害となる可能性のあるリスクや「収益機会の減少」も含め、能動的・継続的に管理し対策を講じ実行していきます。

### ●決して誤ってはいけないプライオリティー

やはり企業は、特に非常事態が起きたときはプライオリティーを決して誤ってはいけないということを強く感じました。我々には素晴らしい「経営理念」「行動憲章」「行動規範」があります。また、2月に創刊された15周年記念誌「はじめなければ はじまらない」も創業者 青木代表の経営に関する考え方や志し、いかにして我々がもがいて苦しんでこまでたどり着いたかが記されています。我々の一番のプライオリティーは「顧客であり、社員を含むステークホルダー」であります。

### ●情報こそが全ての原点

今回の東日本大震災を受け、特に感じたことは、リーダーシップの弱さもそうですが「情報伝達の一元対応とタイミング」がとても大事であると改めて感じさせられました。企業活動も色々な情報が飛び交う中、的確な情報を迅速に把握し、「分析」→「判断」→「対策」→「業績向上」→「働く喜び」につなげていく体制づくりを築かなければいけないと強く感じました。

今後、人の「知恵」とITを駆使したデータベースと伝達の仕組みの構築を目指します。

ハルナインテリジェンスネットワーク株式会社  
代表取締役社長

栗原 健一

## ハルナインテリジェンスネットワーク株式会社

Haruna Group Company Profile

- 法人設立 2008年4月1日
- 所在地 本社:〒370-0841群馬県高崎市栄町4-11 原地所第二ビル 9F  
Phone:027-387-0101 Fax:027-387-0102
- 資本金 5,000万円(ハルナビバレッジ100%出資)
- 事業内容 •人事管理 •資金調達及び資金管理・運用 •会計業務 •情報ネットワークの構築・管理 •人材教育
- 社員数 16名
- 役員 代表取締役社長 栗原 健一(ハルナビバレッジ 財務・人事・情報担当執行責任者)  
取締役 青木 麻生(ハルナビバレッジ 経営執行責任者)





ハルナグループでは、長年培ってきた飲料製造の「ものづくり」のノウハウとグループの利点を生かし、海外においても飲料食品事業を積極的に展開していきます。

HARUNA(株)では、日本ならではの美味しい飲料をお届けすることはもちろん、それぞれの国や地域の食文化やニーズを見据えた、新しい商品を提案しています。

スウェーデンより100%天然素材を使用したスムージー飲料と自然豊かなオーストラリア産の果実のみ使用したストレート果汁を輸入し国内でも好評を得ております。

また、さまざまな茶系飲料の製造販売も低価格高品質を目指し、差別化した商品を徐々に拡大してきております。

近年、健康志向が高まる中、科学的研究や品質管理技術を礎として健康・ライフサイエンス分野の事業として、ウェルネスサイエンス研究所を設立しました。科学的な根拠による裏付けと、徹底した品質管理に支えられた商品を創造し、安全で安心できる商品を私たちがお届けすることで、世界中の人々が健やかな生活をおくれる事を願い、日々前進を続けていきます。

ハルナグループの理念である「顧客志向」を、世界に広げていきたいと考えております。

#### ■海外戦略

- ・高付加価値商品の拡大・新製品上市に向け、日本市場はもちろん海外事業を計画します。
- ・少子高齢化・人口減少などによる食品全般の市場縮小が進む中、飲料を中心としたビジネス展開を考え、現在アジアを軸に経済成長率が高い市場もしくはニーズがある国にターゲットを絞り、積極的な販売展開または業務提携などをする必要があると考えます。新しい試みですが、輸出入の観点・飲料製造のノウハウによる技術提携または将来現地製造も視野に入れ、ビジネスチャンスを創造し、新規ビジネスを日本国内に限らずチャレンジしていくことが今後HARUNA(株)の成長する1つの大きな目標であり、使命だと感じております。またそれらのビジネスを1つ1つ経験し、確実に重ねる事でさまざまな事業の成長と拡大が図れるものと信じております。これらのビジネスを各々成功させ企業価値を高め、ステークホルダーの皆さまに魅力と夢のある企業体として大きく成長したいと考えております。

HARUNA株式会社  
取締役兼常務執行役員(D&MO)

青木日出生

## HARUNA株式会社

Haruna Group Company Profile

|         |                                                                                                         |
|---------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ● 法人設立  | 2002年7月29日                                                                                              |
| ● 所在地   | 本社：〒103-0027 東京都中央区日本橋3丁目8-4 日本橋さくら通りビル2F<br>Phone: 03-3517-5745 Fax: 03-3517-5759                      |
| ● 資本金   | 1億円(ハルナビレレッジ100%出資)                                                                                     |
| ● 連結売上高 | 6億3,700万円                                                                                               |
| ● 事業内容  | ・飲料製品の輸出・販売 ・飲料製品の輸入・販売 ・飲料製品の製造・販売 ・飲料製品の企画・開発<br>・飲料原料の研究・開発 ・特許・実用新案 商標の開発 ・海外市場の調査・マーケティング ・酒類の輸入販売 |
| ● 社員数   | 10名                                                                                                     |
| ● 役員    | 代表取締役社長 青木 清志<br>取締役兼常務執行役員(D&MO) 青木日出生【担当】貿易・営業・開発                                                     |

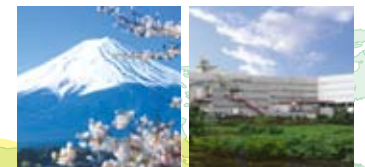
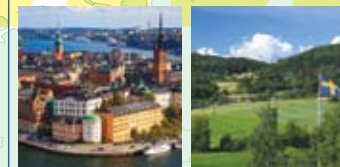
世界中の美味しいを、皆さまへ。  
私たちは、日本中に笑顔をお届けします。

HARUNA株式会社は  
ユニークで高品質なドリンクを世界中から探しています。  
私たちが選りすぐった商品は、美味しさだけでなく、  
元気な笑顔と食卓のちょっと贅沢を演出します。

美味しさづくりは、笑顔づくり。私たちの挑戦は続きます。



スウェーデンからは、砂糖・保存料・添加物を含まない100%フルーツミックスジュース“マイスムージー”と、6世代以上にわたり家族でビールを造り続けてきた“KRÖNLEINS”社の“ストックホルム”及び“クロコダイル”ビールをお届けします。(ビールは限定発売)



日本の緑茶は世界中で健康に良い食品として注目されています。伝統の茶葉製法と抽出方法をもとに、いつでもお茶を楽しんでいただけるように“ルカフェ”は作られました。味覚を魅了する香り貴きお茶をお楽しみください。



オーストラリア大陸の北部では、マンゴーやグアバなどのトロピカルフルーツ、南部ではりんごなどの果物が沢山作られています。“マウンテンフレッシュ”はこのオーストラリア産の果物だけを使用した100%ストレートジュースです。りんごは皮ごと絞った生搾り。濃縮還元ではないフルーツ本来の美味しさを実感してください。







マイスムージー



ブルーベリー さくら アサイ ラズベリー マンゴー ピーチ ストロベリー



ルカフェ



果実そのまま搾っただけ、だからおいしい100%ストレート



オレンジアップル アップルマンゴー アップルグアバ

マウンテンフレッシュ  
フルーツジュース



高原の風を感じる  
清らかな水

失われた水分・ミネラル分を  
素早く補給





食と健康、研究開発

## ウェルネスサイエンス研究所

ハルナグループは2007年「人々の健康と人間の幸せに寄与する」という方針に基づき研究所を発足致しました。ステークホルダーの皆さまから望まれる、安心して安全な飲料のものづくりはもちろん、これからの食と健康に関して、心身共に健やかな社会のため医学、薬学、農学の専門知識を活かし研究活動も行っています。

商品化に向けて、研究開発ユニットを始め、営業マーケティングユニット、品質管理、社会環境、海外事業部など、全ての部署と連携しながら、皆さまに喜ばれる身体に良い製品を研究しています。

## ウェルネスサイエンス研究所

Haruna Group Company Profile

- 設立 2007年4月1日
- 所在地 〒370-3531 群馬県高崎市足門町39-1  
Phone: 027-372-1230 Fax: 027-372-1255
- 事業内容
  - 機能性素材・原料の研究開発 ●機能性分析と解析 ●機能性原料と製品の臨床検査
  - 機能性原料の製品化設計・試作
- 所長 医学博士 免疫学系 青木 陽生
- 医療アドバイザー 医療法人 病院長 五島 知郎  
医学博士 循環器系 伊谷野 克佳  
医学博士 薬学系 韓 涛 (中国北京中医薬大学准教授、医師)
- 主任研究員 農学博士 農業系 中信 光義



すべて、始めは危険だ。  
しかし、とにかく  
始めなければ始まらない。

Friedrich Wilhelm Nietzsche  
1844年—1900年  
19世紀ドイツのギリシア哲学者

## ハルナグループ創業15周年記念誌「はじめなければはじまらない」創刊

ハルナグループ創業者 青木清志の経営の神髄と温故知新

著者 須齋 嵩

1996年2月、飲料製造業で始まったハルナビバレッジは本年2月23日、おかげをもちまして15周年を迎えることができました。創業当時はバブル経済の終焉と共に年々厳しくなる経済状況の中からスタートして、15年間多くの皆さまに支えられて今日を迎えることができました。これもひとえに皆さまの温かいご支援の賜物と、深く感謝申し上げます。

この15年の節目を記念して、日頃より支えていただきました関係各位の皆さまに感謝の心を込めて、未来に繋がられる記念誌を創刊いたしました。

今までの歩みを顧みながら企業の構想力、経営戦略、創業の理念の継承、未来への思想についてを、当社社外取締役であり、群馬大学教授の須齋嵩先生にご執筆いただきました。膨大な情報を読み解き、学殖豊かな須齋教授のすぐれた論稿により、個的な法人の歴史でありながら、将来への起業、経営、社会への創造に役立ち、現在そして将来へ勇気を与える本として注目されています。

著者略歴  
須齋 嵩様  
早稲田大学理工学部卒業  
三菱重工株式会社  
三洋電機株式会社 環境システム副事業部長  
中国大連三洋空調公司董事長、他董事  
エコエネシステム研究所所長  
群馬大学共同研究イノベーションセンター教授  
知的財産戦略副本部長 群馬県産業支援機構理事などを歴任  
専門：燃料電池など環境エネルギー開発論、技術経営論など  
現在：国立大学法人宇都宮大学と群馬大学の客員教授



### 日刊工業新聞 書評より 2011年5月24日掲載

榛名山ろくろの風光明媚なところを拠点に1996年から清涼飲料事業を展開しているハルナグループ。創業15周年を迎える当たって、ハルナグループ代表&CEO、創業者、青木清志氏を中心にまとめた経営社史。青木氏が60歳の時、それまでなんら関係のなかった群馬の地に降り立って企業を起こした。その際の経営理念とは？経営戦略とは？……などなど、世の経営者やこれから起業家を志す人々に勇気を与えるはず。「企業の活動は、人の幸せの実現にあり、望ましい環境の基で、付加価値の創造活動が続けること。よって経営は、人の成長が生み出す果実の競いといえる」が経営理念の原点、に。



## ハルナグループ 沿革

## 年月 ハルナグループ 項目

|      |     |                                                                                             |
|------|-----|---------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1996 | 2月  | 平成8年2月23日に資本金3,000万円でハルナビバレッジ株式会社を設立 第一工場稼動                                                 |
|      | 5月  | 第1回株式上場準備委員会開催                                                                              |
|      | 7月  | 取締役会で株式公開することを決議                                                                            |
|      | 8月  | 金融機関に対し月次決算の開示                                                                              |
|      | 11月 | 東京にマーケティング本部設置                                                                              |
|      | 12月 | 第1回第三者割当増資                                                                                  |
| 1997 | 2月  | 第2回第三者割当増資                                                                                  |
|      | 3月  | 従業員持株会発足                                                                                    |
|      | 5月  | ハルナビバレッジ研究所設立                                                                               |
|      | 6月  | 第二工場稼動                                                                                      |
|      | 9月  | 第1回転換社債発行<br>第1回新株引受権付社債発行                                                                  |
|      | 12月 | 第3回第三者割当増資                                                                                  |
| 1998 | 5月  | 第2回株式上場準備委員会開催                                                                              |
|      | 10月 | 新日本監査法人による調査及び指導開始                                                                          |
|      | 12月 | 第2回転換社債発行                                                                                   |
| 1999 | 2月  | 第4回第三者割当増資                                                                                  |
|      | 3月  | 第3回転換社債                                                                                     |
|      | 5月  | 新日本監査法人による第四期決算調査及び指導                                                                       |
| 2000 | 2月  | 第三工場稼動                                                                                      |
|      | 6月  | 総合衛生管理製造過程(HACCP)取得に向けた合同委員会発足<br>新日本監査法人による第五期決算調査及び指導                                     |
| 2001 | 5月  | 新日本監査法人による第六期決算調査及び指導                                                                       |
|      | 8月  | 第三工場がJAS工場として認定                                                                             |
| 2002 | 2月  | リサイクルシステム協議会発足                                                                              |
|      | 3月  | 第5回第三者割当増資及び役員社員に対しストックオプション付与                                                              |
|      | 5月  | 新日本監査法人による第七期決算調査及び指導                                                                       |
|      | 8月  | 四半期報告会を開催                                                                                   |
| 2003 | 3月  | HACCP認証取得に向け取り組み                                                                            |
|      | 4月  | 環境会計導入<br>企業競争力の強化を図るため市場開発部門を設置<br>提案型企業への変革を目指し商品開発部門を設置<br>HACCPの考えを充実させるため「総合衛生管理委員会」発足 |
|      | 5月  | 新日本監査法人による第八期決算調査及び指導                                                                       |
|      | 8月  | 中小企業経営革新計画承認(中小企業経営革新支援法)<br>四半期報告会開催 (第1四半期～第4四半期)                                         |
|      | 10月 | 「デカテス」産学官共同プロジェクト(高崎健康福祉大学・群馬県)                                                             |
|      | 12月 | 人材教育投資、生産合理化投資、総合衛生管理(HACCP)対応投資<br>第二工場において、クリーンルームと充填設備増設                                 |
| 2004 | 3月  | 第29回国際食品飲料展FOODEX JAPAN2004出典<br>第6回第三者割当増資                                                 |
|      | 5月  | 新日本監査法人による第九期決算調査及び指導                                                                       |
|      | 8月  | 四半期報告会開催 (第1四半期～第4四半期)                                                                      |
|      | 10月 | 人事基本理念制定                                                                                    |
| 2005 | 3月  | 第7回第三者割当増資<br>物流関連企業ハルナロジスティクス株式会社設立                                                        |
|      | 4月  | 「製造者養成ビジネススクール」を開講(ハルナビバレッジ研究所附属)                                                           |



1997年 研究所設立



2003年 環境会計導入



2004年 四半期報告会開始



2005年 ビジネススクール開講

## 年月 ハルナグループ 項目

|      |     |                                                                                                |
|------|-----|------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2005 | 5月  | 新日本監査法人による第十期決算調査及び指導                                                                          |
|      | 6月  | ハルナロジスティクス株式会社 第3倉庫完成 740坪                                                                     |
|      | 8月  | 四半期報告会開催 (第1四半期～第4四半期)                                                                         |
|      | 10月 | 緑地公園「ハルナコミュニティガーデン」を整備                                                                         |
| 2006 | 1月  | ハルナロジスティクス株式会社 第4倉庫完成 860坪 全社IT化に着手                                                            |
|      | 2月  | 創業10周年記念 記念式典開催                                                                                |
|      | 4月  | ハルナエコロジー株式会社、ハルナロジスティクス株式会社共に資本金5,000万円に増資                                                     |
|      | 8月  | 四半期報告会開催 (第1四半期～第4四半期)                                                                         |
|      | 9月  | 全工場(第一から第三工場)において、HACCP承認 (厚生労働省発関厚第0912001号)                                                  |
|      | 10月 | 「地球市民ウィーク2006環境活動展」出展(主催:高崎市)                                                                  |
| 2007 | 2月  | 「食品衛生優良施設」として群馬県知事賞受賞                                                                          |
|      | 3月  | 国際食品飲料展FOODEX JAPAN2007出典                                                                      |
|      | 4月  | ハルナエコロジー株式会社附属ウェルネスサイエンス研究所発足<br>ハルナエコロジー株式会社 EU輸出用緑茶「YOSHI-GO」発表                              |
|      | 6月  | オーバイ株式会社事業譲受契約締結 タニガワバレッジ株式会社準備開始                                                              |
|      | 8月  | 四半期報告会開催 (第1四半期～第4四半期)                                                                         |
|      | 10月 | 合弁会社ハルナヨーロッパ設立<br>ハルナグループ全体会議開催                                                                |
| 2008 | 1月  | タニガワバレッジ株式会社始動                                                                                 |
|      | 3月  | 第8回第三者割当増資及び役員、社員にストックオプション1,500株付与<br>タニガワバレッジ株式会社資本金2億円に増資                                   |
|      | 4月  | ハルナインテリジェンスネットワーク株式会社設立<br>株式会社ハルナビバレッジ研究所は株式会社ハルナ品質環境研究所へ商号変更<br>群馬県初のプロ野球チーム群馬ダイヤモンドベガスをサポート |
|      | 5月  | 株式会社ハルナ品質環境研究所 資本金5,000万円に増資                                                                   |
|      | 6月  | CSR報告書2008発刊                                                                                   |
|      | 7月  | ハルナロジスティクス株式会社第5倉庫完成                                                                           |
| 2009 | 1月  | 第1回無担保私募債発行 5億円 東和銀行全額引受                                                                       |
|      | 3月  | ハルナグループ次世代エネルギー委員会開設                                                                           |
|      | 1月  | タニガワバレッジ株式会社 天然ガス設備稼働                                                                          |
|      | 2月  | 組織再編に伴いハルナ品質環境研究所を<br>ハルナビバレッジファクトリー株式会社へ商号変更                                                  |
|      | 3月  | ハルナインテリジェンスネットワーク株式会社本社移転                                                                      |
|      | 4月  | 第2回無担保私募債発行 5億円 東和銀行全額引受                                                                       |
| 2010 | 1月  | ハルナロジスティクス株式会社 ハルナビバレッジ株式会社へ吸収合併                                                               |
|      | 3月  | ハルナビバレッジファクトリー株式会社資本金2億円に増資                                                                    |
|      | 4月  | ハルナグループ組織再編スタート                                                                                |
|      | 5月  | ハルナインテリジェンスネットワーク株式会社 資本金5,000万円に増資                                                            |
|      | 1月  | 新規事業戦略センター設置                                                                                   |
|      | 3月  | 新商品開発プロジェクトチーム発足                                                                               |
| 2011 | 5月  | 「ハルナビジョン2015」公表                                                                                |
|      | 7月  | ハルナグループ企業行動憲章・企業行動規範制定                                                                         |
|      | 2月  | 創業15周年記念誌『はじめなければはじまらない』発刊                                                                     |
|      | 3月  | Y・S・ロジスティクス株式会社社名変更 ワイエスロジスティクス株式会社へ                                                           |
|      | 4月  | ワイエスロジスティクス株式会社 資本金3,000万円に増資                                                                  |
|      | 5月  | ハルナインテリジェンスネットワーク株式会社資本金5,000万円に増資                                                             |



2006年 創業10周年記念式典開催



2006年 HACCP承認



2007年 海外事業本格化



2008年 タニガワバレッジ(現在、第4第5プラント)稼働



2009年 グループ組織再編



2011年 15周年記念誌創刊



## ハルナグループの一年を振り返って ハルナビジョン2015の実現へ向けて

2010年度はハルナグループ中長期経営計画「ハルナビジョン2015」初年度の年でありステークホルダーの皆さまからの期待に応える重要な年でありました。グループの経営ビジョンである

### 1) 顧客満足度業界ナンバーワン

### 2) 利益を伴う持続的な成長の実現

### 3) ステークホルダーの皆さまの幸せの追求

の3つの目標に向けてグループ各社がチームの結束力を発揮しそれらの成果の追求に邁進してまいりました。

その結果、グループ連結販売数量は2,450万ケース(前年度比117%)、連結売上高164億円(前年度比111%)、利益も前年度を大幅に上回り、創業15年目にして過去最高の業績を残すことが出来ました。



中することではじめて持つ能力・知恵が発揮されます。かつその能力を最大限活用し、組織の成果として結果を引き出すのが経営トップであり、幹部社員であります。その自覚と責任をしっかりと持ち続けてこれからの明るい未来を創造していきたいと考えております。

但し、当社グループはこれからの変化の激しい経営環境に於いても、健全な経営で持続的に発展していけるよう今後のさらなる営業の提案力、生産の現場対応力、品質の管理能力、商品の開発力を磨き、顧客志向を経営の核として常に考える企業になるよう不断の努力で取り組んでまいります。

飲料業界ではメーカー間の合従連衡や、プライベートブランドへの新規参入による競争激化などこれからのマー

ケットは変化への適切な対応と自社の優位性・独自性を磨き上げないと生き残れない厳しい時代に突入します。ハルナグループは未だ若い企業で、これからさらなる成長へ向けて、人としてそして組織として学び持続的に努力すれば、社会から評価される企業になると信じて疑いません。その鍵を握るのは一人一人の社員と組織(チーム)のイノベーションであると考えています。イノベーションは突き詰めると、各々の仕事であり、それは知識を、創意を、能力を必要とし、天才のひらめきではなく、それぞれの専門分野で勤勉、忍耐、決意を持ち、目標に向かい集

最後になりますが、2010年度大変お世話になりましたお客様、お取引先様、株主をはじめとしたステークホルダーの皆さまへの感謝を申しあげるとともに、2011年度もご期待とご満足いただける企業活動に精励致す所存でございます。

ハルナビレッジ株式会社  
代表取締役社長

青木 麻生

## 2010年度 ハルナグループ総括報告

### 粗利益増加

#### ①販売数量の大幅増

2010年度自社工場販売数量が前年比113%増となり、粗利益が3億8,200万円増加いたしました。提案営業による商品開発、多品種小ロットの効率生産とグループの総合力を発揮することができました。

#### ②生産効率の向上

品種の切替時間・非生産時間の短縮、資材ロスなどの生産指標の改善に取り組み、生産効率の向上を図ることができました。

#### ③資材調達コストの削減

グループで調達している資材、原材料、消耗品などの購買価格の見直し及び自社製PETボトルの活用により、3,700万円を削減することが出来ました。

#### ④協力工場販売数量万ケース増

全国協力工場12社へ生産を委託し、2010年度の協力工場販売数量は前年比223%の297万ケースとなりました。

#### ⑤HARUNA(ハルナエコロジー)自社ブランド飲料販売増

自社ペットボトル飲料新商品の導入による販売増と輸入果汁飲料の新規顧客開拓及び、利益率の改善、飲料原料の堅調な販売などにより2010年度の粗利益は前年比5,700万円増(159%)となりました。

### コスト合理化対策

#### コスト合理化により前年比-8,000万円削減

#### ①組織の合理化と飲料工場としての責任

「組織の活性化と個人能力の最大活用」をテーマに、社員教育の徹底を行い、組織の合理化を行うとともに、飲料工場である責任と自覚を徹底させるため、派遣社員から正規社員へ積極的なシフトを行い品質の強化を努めることができました。

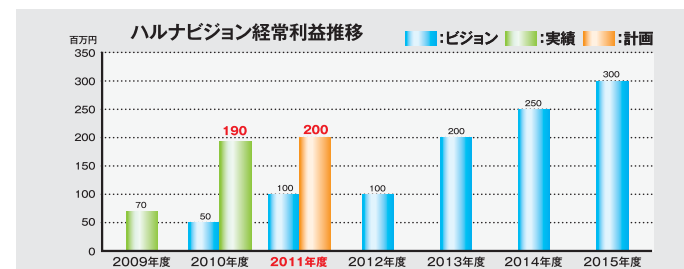
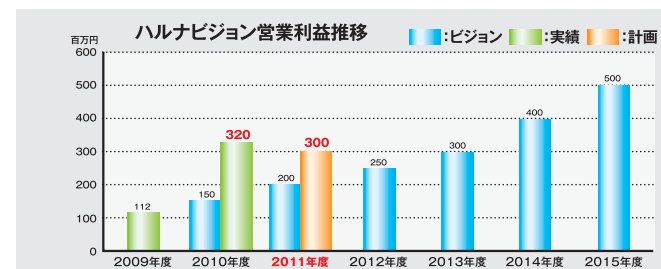
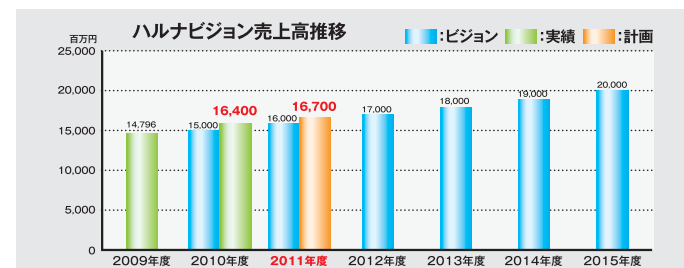
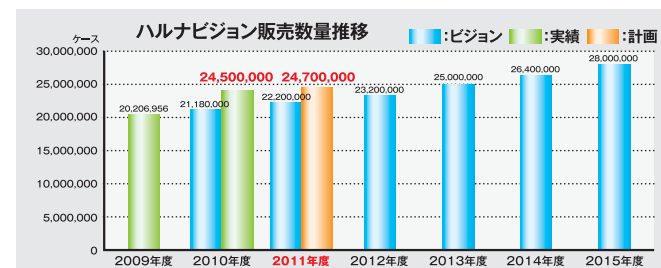
#### ②無駄なコストの聖域なき見直し

人件費以外の全ての経費について聖域なく見直しを行い、固定費の削減を図ることができました。

#### ③物流コスト削減

ワイエスロジスティクスが2年目となり、物流・倉庫業務を政策的に移管することにより、倉庫と物流の一体管理が可能となり、お客様満足の向上を図ることができました。また、新規自社倉庫であるA倉庫稼働等に伴い、さらに一体管理が徹底され、物流コストについては、前年比-3,500万円の削減となりました。

|          |        |     |
|----------|--------|-----|
| 自社倉庫使用比率 | 2009年度 | 77% |
|          | 2010年度 | 81% |



### 最高監査役からのご意見

## 「ハルナビジョン2015の初年度を振り返って」

ハルナビレッジ株式会社 最高監査役  
小出公認会計士 税理士事務所  
代表 小出 信介

「ハルナビジョン2015」は初年度から計画を大きく上回り、順調にスタートできました。これは  
①業務改善による固定費比率の引き下げ  
②商品開発の積極的展開による商品アイテム数の増加  
③設備投資の峻別によるフリーキャッシュフローの増加  
の3点に要因が集約できるものと思います。

このような業務改善は短期的な業績改善よりも、これを継続することによる中長期的な企業体質、財務体質の強化につながるものと思います。来期以降も、全員の努力により継続して企業価値を高めていってほしいと思います。